

営農インフォメーション

水稲



～出穂期に備え、防除の徹底を～

☆いもち病防除

使用時期	使用薬剤	使用量/10a	予防・治療	本剤使用回数	
穂揃期まで	カスラブサイド粉剤 DL	3～4kg	予・治	2回以内	※
収穫21日前まで	ブラシン粉剤 DL	3～4kg	予・治	2回以内	※
穂揃期まで	カスラブサイドゾル	1000～1500倍 60～150ℓ	予・治	2回以内	※
収穫21日前まで	ブラシンフロアブル	1000倍 60～150ℓ	予・治	2回以内	※
出穂30日前～ 5日前まで	コラトップ粒剤	3～4kg	予	2回以内	
収穫7日前まで	ビーム粉剤 DL	3～4kg	予	3回以内	
収穫7日前まで	ラブサイド粉剤 DL	3～4kg	予	3回以内	※
収穫7日前まで	ビームゾル	1000倍	予	3回以内	
収穫7日前まで	ラブサイドフロアブル	1000～1500倍	予	3回以内	※

☆稲こうじ病防除

使用時期	使用薬剤	使用量/10a	本剤使用回数
出穂前20日～10日	Z ボルドー粉剤 DL	3～4kg	1回
出穂前20日～10日	ラブサイドペフラン粉剤 DL	3～4kg	3回以内 ※
出穂前20日～10日	モンガリット粒剤	4kg	2回以内

(※) 左・上表のラブサイド剤・ブラシン剤の総使用回数は、個人防除・無人ヘリ防除あわせて、3回までです。ご注意ください。

☆穂肥の判断 (10aあたり窒素成分)

あきたこまちの幼穂形成期(7月15日ごろ)、減数分裂期(7月25日ごろ)

生育量	幼穂形成期	減数分裂期
かなり不足	2kg	2kg
やや不足	1～2kg	2kg
理想	ムラ直し1kg	2kg
やや過剰	なし	1～2kg
かなり過剰	なし	ムラ直し1kg

ねぎ



～夏ねぎの作業ポイント～

☆土寄せ

①土寄せは、埋め戻し(平畝)のあとに3～4回程度行ってください。

②培土は、ねぎの葉身と葉鞘部の分岐点から10cmくらい下までの軽い土寄せとします。最終培土は、分岐点より5cmくらい下までの深い土寄せとして、収穫前14～20日までに終わるようにしましょう。(収穫前の14～20日前に最終培土を行ってください。)

【土寄せの目安】

	削り込み	埋め戻し(平畝)	1回目培土	2回目培土	最終培土
実施時期	定植後 15～20日	定植後 35～40日	定植後 55～60日	定植後 75～80日	定植後 90～100日
茎の太さ	4～6mm以上	10mm～	13～14mm	16～17mm頃	20mm～
備考	除草を兼ねながら植え溝の表土を削りこむ。ねぎを埋めない。(M型培土)	5～7cm程度の培土を行う。(M型培土)	前回培土した時の茎の太さから3mmくらい太くなった頃に行う。(M型培土)		25cmの軟白長を確保するために、30cmの培土をこころがける。

☆病害虫発生条件

①「ネギアザミウマ」は20℃で約20日の生活サイクルで発生します。

高温の年はこの日数をもっと短く回転するので、薬剤散布の間隔が長いと虫の密度が高くなって薬剤散布の効果が低くなるので注意する。

ネギアザミウマはアスパラガス、山うど、花き等でも発生するので、周辺の作物での発生にも注意してください。

②「軟腐病」の発生対策を。

高温・多雨の年は軟腐病の発生が多くなります。早めに薬剤散布して発生を抑えるようにしましょう。過度の肥料や高温時の土寄せは、軟腐病発生を招きますので注意してください。

③収穫が近い「べと病・さび病」の防除も怠りなく。

涼しい夏の年は、「べと病・さび病」は要注意となります。天気予報に注意して、早期防除のタイミングを逃さないようにしましょう。

	薬剤名	倍率等	収穫前日数	使用回数
べと病	リドミル MZ 水和剤	1,000	収穫30日前	あわせて3回
	フォリオプラボ顆粒水和剤	1,000	収穫14日前	
	プロポーズ顆粒水和剤	1,000	収穫14日前	3回
	フェスティバル C 水和剤	1,000	収穫14日前	3回

今月のあなたの運勢 (2011年8月)



牡羊座 (3・21～4・19) 前向きな気持ちになれる月。やってみるには積極的に取り組んで。気の合う仲間とのレジャーもお勧め